

痛風と高尿酸血症

監修：西岡久寿樹(東京医科大学医学総合研究所 所長)



pixta.jp - 21938554

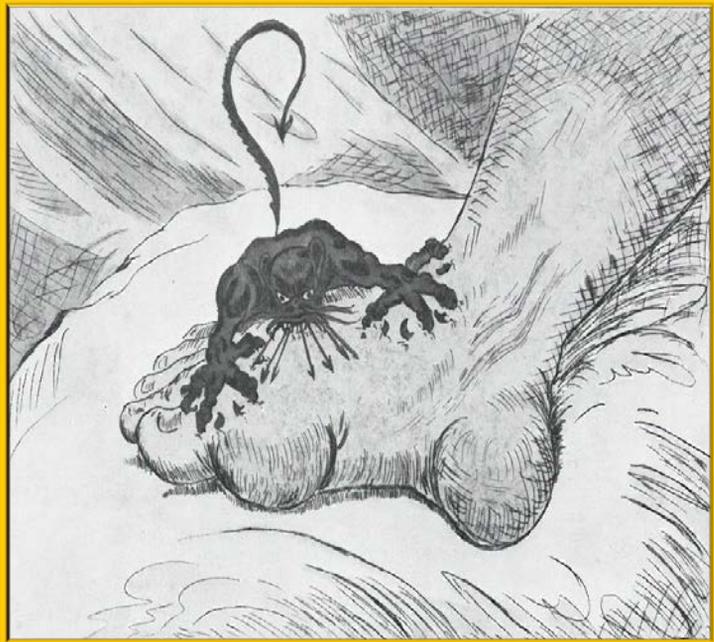
痛風とは

圧倒的に男性に多くみられる病気です。

西洋では古くからある病気として知られていました。

日本では明治時代に「痛風」という病気が知られるようになりましたが、当時は日本食に代表される食文化などから日本人にはない病気と言われていました。しかし、1960年～1970年代にかけて行われた疫学調査によって、ようやく日本人にも発症する病気として認められるようになった病気です。

現在は、治療薬が開発されたことから難病ではなく、日本全国の医療機関でも専門医による診療が受けられるようになりました。



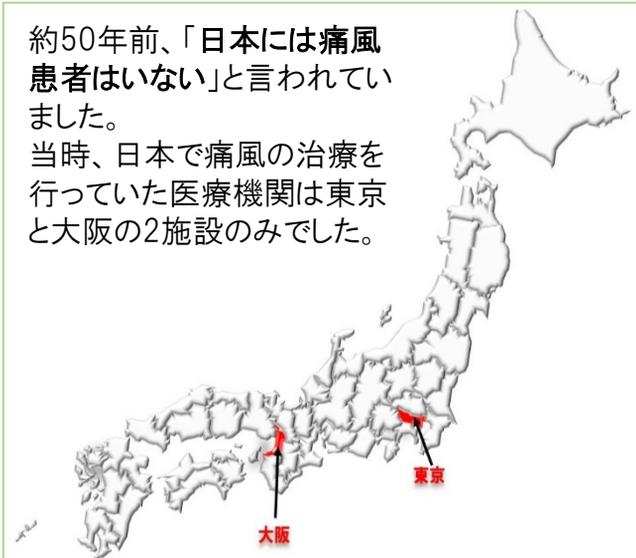
The GOVT.

Engraved by J. G. Gillray, London, 1799.

Artist by James Gillray (1757-1815), Published by H. Humphrey. London, May 14, 1799

約50年前、「日本には痛風患者はいない」と言われていました。

当時、日本で痛風の治療を行っていた医療機関は東京と大阪の2施設のみでした。



18世紀後半、悪魔が噛みつくことによって痛風の激痛が起こると言われていたことを風刺した James Gillrayの絵

痛風と高尿酸血症

監修：西岡久寿樹（東京医科大学医学総合研究所 所長）

症状

ある日突然、足の親指の付け根の関節が赤く腫れて、大人の男性が2～3日は全く歩けなくなるほどの激しい痛みを襲われます。その痛みは風が吹くだけでも痛いと言われていたことから「痛風」と言われるようになったくらいです。

この症状は、発作的なものであることから尿酸が原因となって起こる痛風発作といわれています。ほとんどの場合、1週間～10日たつと治まって、しばらくすると全く症状がなくなりますが、半年から1年たつとまた同じような発作が起こります。血液中の尿酸が増加した状態を高尿酸血症といいます。

また、足首や膝の関節まで腫れはじめ、発作の間隔が次第に短くなってくると当時に関節の症状だけでなく、腎臓などの内臓までが侵されるようになってきます。

診断 下記の表の9項目のうち6つ以上当てはまる場合痛風と診断します。

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 症状が出てから1日以内にピークに達する |
| 2 | 以前にも同じような症状があった |
| 3 | 一つの関節だけに症状がある |
| 4 | 関節の部位が赤くなる |
| 5 | 関節が腫れている |
| 6 | 足の親指の付け根の関節に激痛・腫れがある |
| 7 | 片足の親指の付け根の関節に炎症がある |
| 8 | 片足の足首の周りの関節に炎症がある |
| 9 | 血液検査で尿酸値が高い |



生活の注意点



バランスの良い食事と休肝日



適度な運動、積極的な水分接種、ストレスをためない

